

# この人にきく

## 新潟市歴史博物館長 甘粕 健さん

内山 雄平



甘粕健さんは、19

30年静岡県生。新潟

大学名誉教授。元日本

考古学協会会長。

見田石介さん（哲学者）

が叔父、見田宗介さん

（社会学者）、森南海子

さん（服飾デザイナー）はいとこ。先祖は上杉謙信の

上級家臣で、幕末まで米沢藩士。

「越後における古墳成立期と初期ヤマト政権の勢力圏の北限の解明」により新潟日報文化賞を、長年の古墳時代研究と文化財保存への貢献に対して和島誠一賞を受賞された。

（編集部）

いまは館長で

「みなとぴあ」が開館して五年になります。一九九六年に新潟大学を定年で終え、間もなく開館の準備に関わってきました。地域に根ざした博物館として親しまれ、順調に役割を果たしてきているのは喜びです。開館以来の来館者の累計は九〇万人を突破、一〇〇万人は目前です。特に小中学生が先生に引率されて大勢来てくれます。

越後で発掘は

新潟大学に赴任したのが一九七七年です。新大に初めて考古学研究室を開きました。学界では古墳の研究者として通っていましたから、古墳の中心から外れた

新潟で何をやるんだろうと心配する声も聞かれました。しかし大学から良くみえる角田山麓にはただ一つですが、北限の前方後円墳として戦前から著名な葛蒲塚古墳<sup>アヤマツカ</sup>があり、ここから江戸時代に立派な鏡も出土しています。それが孤立してあるはずがない。関連した古墳や集落が必ずあると見ていました。

予想通り葛蒲塚の南3・5キロメートル地点で、葛蒲塚古墳の先代の首長の古墳と考えられる前方後方墳山谷古墳<sup>ヤマノ</sup>がみつき、続いて対岸の信濃川右岸の丘陵上に保内三王山古墳群（三条市）がみつきました。これをきっかけに信濃川の兩岸で次々と発見が続ききました。誕生したばかりの研究室でしたが、幸いにこれらの古墳の測量調査や発掘調査に系統的に取り組むことが出来、その中で多くの学生や院生が一人前の考古学徒に育ち県内外で活躍しています。考古学を学びに大学にきて発掘なしで卒業はいけないと、それぞれの自治体に協力してもらって、毎年切れ目なく発掘の現場で学べるよう努めました。保内三王山一一号墳と山谷古墳では新潟で初めての中心の埋葬施設の学術発掘に成功し、典型的な前期古墳文化が越後平野に波及した状況を明らかにすることができました。

### 地域の理解と協力が

三条の三王山古墳群の発掘では学生諸君が每晚おそくまで頑張って発掘ニュースを作って全戸配布しました。地元の人々の皆さんは毎日山を登っておやつを届け激励してくれました。発掘が終わると市内の各地区から次々にお声がかかり、発掘の成果を報告させてもらいました。「円高不況で何一ついいことがないが、発掘を通じて市民に元気を与えたい」と言われた市長の言葉が忘れられません。歴史を考え郷土を見つめ未来を築く糧になったと思います。

巻町では市民によって「山谷古墳の発掘を支援する会」が結成され、町当局を動かして、完全発掘が実現しました。行政による開発がらみの緊急発掘が大部分を占める中で、新大の研究室が純粹に学術的な課題を追究するアカデミックな発掘調査に一貫して取り組んでくれたことは本当にありがたいことだと思います。

一方、一九八四年の中郷村籠峰遺跡の大規模な縄文の配石墓地の保存運動以後、見附市耳取山遺跡群、新津市八幡山遺跡、和島村八幡山遺跡、上越市裏山遺跡、朝日村奥三面遺跡群などの保存運動に力を尽しました。新潟県は全国で保存運動が最も盛んな県の一つになり

ました。保存運動を通じて県下の研究者市民の団結が強まり、長年の懸念、たつた新潟県考古学会が結成されました。また研究者・市民の保存運動と学習活動のセンターの機能を担う文化財保存新潟県協議会（文新協）も結成されました。保存運動によつて幾つかの遺跡は保存されましたが、多くの遺跡はおしまれつつ消滅しました。だがいずれの場合でも市民の世論の監視によつて緊急調査の質が保たれ、成果の公開が促進されるという前進面を見ることが出来ました。ほぼ完全に残っていた弥生高地性集落新津の古津八幡山遺跡と上越市裏山遺跡では、地域住民主体の保存運動が大きく盛り上がりしましたが、前者は保存され後者は破壊されました。防衛機能を備えた戦乱時の集落の全貌が、二つの運動を通じ県民のまゝに明らかにされ、中国の史書に「倭口乱」とか「倭国大乱」と記された戦乱が越後平野まで波及していたと考えられるようになりました。そして越後の高地性集落の分布は、前期古墳の分布と重なっていることも分つてきました。こうして越後平野が、邪馬台国の時代から初期ヤマト政権の時代まで西日本の勢力の北限の拠点として列島の歴史に重要な位置を占めていたと予想されるようになったのです。

#### 学問への道

小学校は東京でした。四、五年生の時の担任が歴史好きの先生で歴史の面白さを吹き込まれました。中学の二年生、戦時に広島（現福山市）の母の実家へ疎開し、敗戦の翌年裏山で弥生式土器片を見つけました。今思うと弥生の高地性集落でした。私が行っていた府中中学の日本史の教師には豊元国先生と云う秀れた考古学者が居られたので拾い集めた土器を見てもらったところ、これは弥生式土器で大発見だと喜ばれ、発見の意義を熱く語ってくれました。中国新聞に「中学生のおてがら二千年前の土器発見」と報道され舞い上がりました。それからは豊先生について廻り、地歴部を組織して活躍しました。夢のような日々でした。色々な時代、色々な種類の遺跡を訪ね、地域の歴史像を構築して行く豊先生の学問に魅了されました。大学で考古学を学ぶと決めて東京にもどり、新制の都立高校に編入されました。戦後考古学は皇国史観を克服して歴史の真実を明らかにする主役として脚光を浴びます。その中でも静岡市登呂遺跡の発掘は考古学界の総力を結集して行われ、国民に大きな希望を与えた大事業でした。私も短期間ですが高校生として一人で参加させ

てもらいました。大学ごとに発掘地点が割り当てられていて、私は和島誠一先生が東洋大学、東京大学、実践女子大学等の混成部隊を指揮する水田址の発掘現場に紛れこみました。和島先生は戦前、日本で初めて史的唯物論の立場から叙述された通史『日本歴史教程』

の共同執筆者で、国民的歴史学の運動の金字塔と言われた一九五三年の岡山県月の輪古墳発掘の指導者です。和島先生の指導のもと、日本で最初の原始農村の水田址の発掘にたずさわることの意義を叩き込まれた一人の学生がそれぞれに課題を持つて慎重に竹べらで掘り進めている、ピンと張りつめた現場の雰囲気が高校生の私を強く引きつけたのだと思います。新制東大の二期生となり、文学部の考古学科で学びました。後に稲荷山古墳の鉄剣の銘文で有名になった埼玉古墳群を含む「荒川流域の古墳群の地域的研究」が卒業論文でした。学部を卒業した年の夏に、和島先生の指揮のもと首都圏の大学生の連合軍で、日本で初めて縄文の集落を完掘した横浜市南堀貝塚の発掘に参加しました。この遺跡図は多くの高校教科書に使われました。ここで私は遺跡の全構造を明らかにするための戦略と戦術が大切なことを学びました。同じ年の秋、大仙古墳

(仁徳陵)等の王陵が集中する堺市百舌鳥古墳群の中心部にある大形前方後円墳いたすけ古墳が土建業者に破壊されそうになり、全国の考古学研究者と地元市民運動が協力して守ったという画期的なできごとがありました。

哲学者で大阪市大にいた叔父の見田石介が堺市に住んでいて、地元の青年考古学グループのリーダーの宮川<sup>ミヤカ</sup>徳さんに考古学をやっている甥が居るから連絡するようにとアドバイスしてくれたのがきっかけでこの運動に深くかかわることになりました。この体験を通じて地域住民の中に文化財を守る大きな力があることを学び、学問の立つべき位置を知りました。研究面では畿内の大前方後円墳を守る戦いを通じて、従来の地域研究と併せて、全国的な視野に立った 前方後円墳の研究をライフワークにしようとしたのでした。

### 望むこと

この博物館は、生の資料を通じて教科書では学べないユニークな新潟の歴史が体感出来るようストーリー性を持たせて展示しています。小中学生は勿論多くの人達に活用してほしい。新潟県では開発対応の発掘が

とめどなく拡がっており、重要な発見が相次いでいますが、自治体の専門職員の不補充による人手不足は深刻で多くの現場が民間の発掘会社に委ねられています。「民間活力」による調査のスピードアップを期待するとすれば本末転倒です。緊急調査といえども、遺跡のどの部分を掘っているのか、そこで明らかにすべき課題は何か、そして調査の結果が地域史の中に如何に位置づけられるかをしっかり視野に入れて慎重に取り組んで欲しい。若い人には特にそれを望みたい。発掘の現場からは離れましたが多くの同好の市民とともに引き続き創造的な地域研究と文化財保存運動の発展に微力を尽くしたいと願っています。

(あまかす けん)

編集部註

新潟県の弥生〜古墳時代については、甘粕健編の『越後裏山遺跡と倭国大乱』（新潟日報事業社、二〇〇一年）が分かりいい。

この書は甘粕さんをはじめ十四人の研究者と画家が執筆。図やイラストも随所にあつて、中学、高校生も読める。

(聞き手・内山雄平)

越後の前期古墳と弥生高地性集落

(●…古墳、△…高地性集落) 本書92頁

